

老齢動物の病気について

前号ではMR（犬の僧帽弁閉鎖不全症）の診断には、**心エコー検査**が非常に重要であることをお話ししました。**心エコー検査**はMRの**確定診断**ばかりでなく、その後の**進行度合い**やMRに付随しておこる心臓の様々な変化を評価します。

胸部レントゲン検査はMRの診断に関しては、心拡大を判定します。さらにMRのステージ分類で重要になる「**肺水腫**」の有無や程度を評価することができます。しかしながら心疾患の診断において重要なことは、咳の原因が腫瘍や炎症など他の要因が関与していないか？呼吸困難の原因が胸腔にたまった液体貯留でないか？などの**鑑別診断**をしっかりと行うことです。

血液検査も通常同時に行いますが、MRを確定した

りステージ分けをすることにはあまり役には立ちません。強いて言えば直接心疾患を評価する項目として、心筋に負荷がかかった時に心室から分泌されるホルモンNT-proBNPや心房から分泌されるANPなどの心臓病バイオマーカーを測定したり、筋損傷で上昇するCPKなどの項目（心筋が痛むと上昇し、人間では心筋梗塞などで上がります）に注目することもあります。しかしながらMRを含む心疾患で**血液検査を行う重要な意義**は、心疾患以外に他の病気に罹患していないか？という**鑑別診断**です。また、薬剤を安全に効果的に使うためにも、電解質や腎機能、肝機能などを評価することはとても重要です。

心臓の検査としては**心電図**があります。過去には心電図で心肥大を評価していましたが、心エコー検査が

② 犬の僧帽弁閉鎖不全症

5.MRと診断された時、飼い主は何をすべきか？
～MRで行われる検査について～

文・写真 **中西章男**
text & photo by Akio Nakanishi



普及してからは、主に不整脈と心臓内の電気刺激の伝導具合、心筋の虚血などを評価します。

人では血圧は日常の検査として測定されますが、動物も測定できるようになってきました。しかしながら過度な興奮によって生理的に上昇してしまうので落ち着かせて測定する必要があります。MRでも他の心疾患と鑑別するため必要な薬剤の選択のために、血圧もまた測定すべき項目の一つです。

以上のように、MRを含む心臓病を疑った場合、ま

ず、一般的に行われる血液検査、レントゲン検査により全身状態と症状の原因の可能性を評価し、他の疾患との鑑別、併発を考えます。そして心疾患の可能性が高い場合、心電図、血圧の測定、心エコー検査により心臓病としての診断、評価をしていくことになります。

しかしながら、ステージ分類にも言えることですが、一番重視しなければならないのはその動物に今起きている症状です。投薬に関しても、データよりも今その子を楽にしてあげるためには何が一番必要か？を考えます。



Profile

獣医師・獣医学博士。1959年生。1986年日本獣医畜産大学（現日本獣医生命科学大学）大学院博士課程卒。大学ではフィラリア症の血行動態、腫瘍および外科の免疫について研究。1987年東京都杉並区で「阿佐谷ペットクリニック」を開院。小動物の総合診療医として犬猫のみならずウサギ、小鳥、ハムスター、モルモットなど数々の動物を診療してきた。趣味：ゴルフ、モータースポーツ、機械いじり、動物たちとの戯れ。著書：『車イスに乗ったチロ』集英社